

つなげようつながろう ふたばのわ

「ふたばのわ」は双葉町の結びつきを
深めるためのコミュニティ紙です。
自治会・団体の活動紹介や町民同士の
新たな交流の場を取材しお伝えしていきます。
「ふたばのわ」を通して町民のみなさんの
つながりや笑い合う場を増やしていけたら。



- ▶ タブレットフォトコンテスト審査結果発表～写真でつなごうふたばのわ～(P2～3)
- ▶ ふたばしゃべり場2015開催報告(P4)
- ▶ 未来へのキオク～子どもたちの思い出の場所の今～(P5)
- ▶ ふたばのわスマイルフォト(P6) ▶ お知らせ～高校生のみなさんへ(P7)
- ▶ 放射線モニタリング情報・後世に残したい双葉町・編集後記(P8)

発行：双葉町秘書広報課(☎0246-84-5202) 企画・編集：ふたさぼ(双葉町復興支援員)



インターネットでもつなげようつながろうふたばのわ
(町公式フェイスブックページ)

▶ <http://facebook.com/fukushima.futaba>



写真でつなごう ふたばのわ

タブレットフォトコンテスト



審査結果発表

最優秀賞



「幸せな二人」 飯塚洋美さん

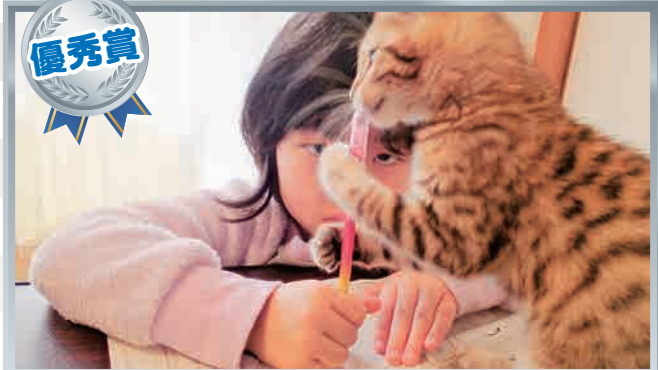
平成26年12月24日（水）～平成27年2月15日（日）の期間で開催していたタブレットフォトコンテスト。投稿総数314点の中から受賞作品が決定しました！
このコンテストは、タブレット端末をより親しんで使ってもらうことと、タブレットを通じて町民のみなさま同士の交流・親睦を深めることを目的に、ふたさぼ（双葉町復興支援員）主催で開催しました。

優秀賞



「いところが増えたよ＼(^o^)/」 吉岡安子さん

優秀賞



「ちょっとどいてくださる？」 田中美子さん

特別賞
町長賞



「愛犬のチャージュー」 横山やすさん

特別賞
写真部賞



「仲良し せんだん一座」 高田久美子さん

審査方法

本コンテスト審査には、双葉町芸術文化団体連絡協議会写真部 伏見政恵氏、宮本吉夫氏、松木秀男氏、笑顔プロジェクト大森文暁氏、双葉町長伊澤史朗氏、双葉町教育長半谷淳氏にご協力いただきました。審査は、事務局による審査対象作品選別後、審査員6名により、投稿コメントも合わせた3つの評価軸（テーマ性・話題性・写真の技術）で評価し、受賞作品を選出しました。

特別賞

笑顔プロジェクト賞



「夢追う孫」 半谷八重子さん

審査員を代表して、伏見政恵さんにメッセージをいただきました!

町に貢献したい、みんなの喜ぶことならぜひやりましょうということで審査員の依頼を受けました。写真は一目見てその時を思い出すことができ、見た人に印象深く残っていくものです。また、間接的ではありますが、相手に自分も撮影してみようという意欲を与えます。タ

ブレットの利用は高齢者にとって経験のないものですが、積極的にチャレンジしている人、写真の面白味を感じている人が多いと感じています。

タブレットの活用を通して、生きがいを見つけ、町民同士がいきいきと“わ”を結んでいくことを願っています。



受賞者インタビュー



吉岡安子さん

タブレットが配付されてから、わからないことをすぐに調べることができ、生活が便利になったと感じています。コミュニティ広場に投稿したのはフォトコンテストの応募が初めて。誕生、結婚など明るい話題は周りの人を笑顔にしますし、孫は小さい子が好きなのでその様子を撮影しました。投稿後に知人や友人から連絡をもらいうれしかったです。



田中奏子さん

お母さんから「最優秀賞逃したよ〜」と言われ、受賞を知りました。とにかく、ずっと飼っていた猫をみんなに見てほしかった妹の宿題の邪魔をしていたところを撮ったらまたま鉛筆をかじっていて、おもしろいと思い応募しました。普段は他の人のペットの写真を見て楽しんでいます。大人も子ども、たくさんの方がコミュニティ広場に参加してくれるととっても楽しく感じています。



飯塚洋美さん

震災で辛いこともたくさんありましたが、震災があったからこそ家族の大切さを実感しました。今回のサプライズ写真も家族みんなでお祝いをしてたくて企画しました。二人ともとても喜んでくれて、素敵な笑顔を見せてくれました。また、タブレットに投稿された雪景色や草花の話を通じて、みなさんの生活を伺い知ることができたり、懐かしい方からお返事をいただくことができたりと、とてもうれしい機会となりました。



半谷八重子さん

締切直前で、応募したいと急に思い立ち、孫にお願いして撮影しました。夢というタイトルをつけたら、そこからスラスラと言葉が出てきて、ふるさとを大事にしたいという想いも伝えたくて車のナンバーの話も書きました。いつもタブレットを見るのが楽しみです。双葉町がつながっている感じがして仲間にあたったようでほっとしています。



高田久美子さん

スマイル部門というテーマを見た時に、「民謡教室のみんなの笑顔だ!」とピンとききました。みなさんそれぞれが辛い思いをしているにも関わらず、お互いを励まし合いながら、いつも和気あいあいと過ごしています。この様子をみんなに伝えたいと思いました。コンテストを通じて会話も盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。



横山やすさん

チャーシューは17歳。人間でいうと100歳です。双葉前に住んでいた方からもらい受け、息子が自転車の籠に乗せて連れてきたのを今でも覚えていますが、可愛くて家族交代で一緒に寝ていたことも良い思い出。受賞後には友人から「おめでとう!」と電話をもらいました。また、タブレットを通じて、懐かしいお客さんの顔を見ることができうれしく思っています。

タブレットを通じて『ふたばのわ』を作りたい。そんな想いでフォトコンテストを開催させていただきました。

『みんなの生活の様子があってほっとした』『写真を通じて話に花が咲いた』『タブレット集会でみんなと会えて楽しかった』『写真良かったね!』って友達が電話をくれた

各地から投稿された、たくさんの笑顔や思い出。その写真たちは遠く離れていても、みんなつながっているということを教えてくれ、笑顔の連鎖を作ってくれました。

写真を投稿してくれた方、タブレット集会に参加してくれた方、写真を見て返事・電話をしてくれた方、タブレットフォトコンテストを話題にしてくれた方、写真を見て笑顔になった方。たくさんの方にフォトコンテストに参加していただき、大きな大きな『ふたばのわ』を作ることができたと感じています。本当にありがとうございました!



タブレット
フォトコンテスト
開催にあたって

**「参加して良かった。
もっとたくさんの人と双葉のことを話したい！」**

平成27年3月に、郡山市（1日①）東京都新宿区（7日②）いわき市（15日③）の3カ所で開催した「ふたばしゃべり場（※）」。3会場で合計12人が参加しました。各会場で「ふるさと」や「復興」への若者たちの熱い想いが共有され、もっと多くの人にこの場に参加してもらいたいという意見が多く出ました。

「ふたばしゃべり場」は、双葉町に関わりの深い若者たちが、ふるさとへの想いをざっくばらんに話してもらおう場となっています。この3回のしゃべり場でのテーマは、「復興ってなに?」「復興のために今できることは?」というもの。ふるさとから一旦離れてしまったことで、改めて住んでいた町の何気ないことが大切に感じられ、それを取り戻したり、残したり、つなげていくことが「復興」という意見が多く出ました。

そして「今できること」としてあがったのは、「世代をつなげる」ことや「双葉を発信する」こと。そのために「元々あったお祭りやイベントを復活させる」、「若者発信のイベントをつくる」、「町を越えて、今復興のためにしていることをつなげていく」など、時間が足りなくなるほど、たくさんの想いやアイデアが語られました。

ふたば 2015 しゃべり場

開催報告



いわき会場ではスペシャルゲストとして、広野町出身で「Re make Hirono」という団体を立ち上げた高校生・松本萌花さんを迎え、広野町で行っている若者の活動を伝えてもらいました。「高校生である自分たちが動けば、町に若者を呼び戻せるのではないかと考えて活動している」という萌花さん。すでに町のために動いている高校生の姿に、参加者のみなさんは刺激を受け、自身の町でも、仲間が集まれば何かできるかも知れないという手ごたえを掴んだようでした。

また「ふたばしゃべり場」にはもう一つの役割があります。それは「若者たちが町と相互に意見交換ができる場」であること。しゃべり場の中で、双葉町復興推進課の若手職員から復興に向けた町の取り組みが紹介されました。昨年開催したしゃべり場で出た意見は町にも報告され、町の取り組みに反映されています。

3回の「ふたばしゃべり場」を通じて強く感じたのは、参加者のみなさんのふるさとへの「想い」の強さと「つながり」の大切さです。その「想い」をひとつでも多く「つなげる」ために、さらにたくさんの方がこの「ふたばしゃべり場」に参加して、「想い」を伝えてもらえることを願っています。



町の取り組みを紹介する双葉町職員



しゃべり場 in 郡山の様子



次回しゃべり場の予定は決定次第、町のホームページや Facebook ページなどで告知いたします。双葉町のために何かしたい、話したいという若者のご参加をお待ちしております！

※ふたばしゃべり場は、「若者の声を町に届けよう」と平成26年11月に始まったもので、20～30代の双葉郡出身の若者たちが集まる場として、ふたば（双葉町復興支援員）が企画しています。（ふたばのわ第15号にも開催記事が掲載されています）

未来へのキオク

～震災から4年 子どもたちの思い出の場所の今～

誰もが思い出の場所として心の中にある学校。
震災以降、原則立ち入りが禁止されている町内の教育施設の様子が「Google マップストリートビュー」で公開されています。

「未来へのキオク」プロジェクトは2011年5月からGoogleにより開始されています。被災地の過去、現在、未来の記憶である写真や動画を集めてその記憶を閲覧し、共有したりコメントをしたりと、記憶を通じて、みなさんがつながっていることができる仕組みをインターネット上のサイトにて提供しています。

園児・児童・生徒のみなさんからの施設をみたいという要望から「未来へのキオク～震災から4年 子どもたちの思い出の場所の今～」プロジェクトが始まり、2015年2月、双葉町内の教育施設の撮影が行われました。



公開されている 双葉町の施設

- ふたば幼稚園
- 双葉南小学校
- 双葉北小学校
- 双葉中学校
- 双葉町図書館
- 双葉町歴史民俗資料館
- 双葉町体育館

双葉町教育施設、Google ストリートビューの公開にあたり

双葉町教育長 半谷 淳

震災後、町の施設はどうなっているのか、学校はどうなっているのか、大変気掛かりでした。Google がそういった気持ちに応え、協力してくれたことにより、双葉町教育施設のストリートビューがインターネット上に公開されました。あの日、幼稚園ではちょうど年長児のお別れ会が終了した時でした。中学校では卒業式を終え、各クラスで黒板にそれぞれがメッセージを書き上げたところでした。小学校には今も子どもたちのランドセルが教室に置かれたままです。図書館や民俗資料館、体育館でも実に多くの町民が自らの夢を追い、生き方を追求し、共に汗を流したはずで、「いつの日か、この施設で学びたい」、そんな夢を見ながら、大切な思い出として時折眺めてほしいと思います。

アクセスサイト▷

Google 未来へのキオク

福島県 震災から4年子どもたちの思い出の場所の今
<https://www.miraikioku.com/?m=fukushima>



タブレットやスマートフォンのQRコードリーダーを使ってバーコードを読み取ると「未来へのキオク」のサイトが表示されます。

タブレット・スマートフォンでの閲覧の仕方

- ① ページが表示されたら右上のメニューボタンをタップ
- ② コレクションを選択→「福島県震災から4年子どもたちの思い出の場所の今」を選択
- ③ <福島県双葉町>よりご覧になりたい教育施設を選択

ふたばのわ スマイルフォト

～笑顔でみんなをつなげたい～



2月10日
タブレットを活用した
コミュニティ集会
(仙台市)



2月15日
ふたば交流広場
お好み焼づくり(加須市)



2月19日
婦人学級長合同会議(いわき市)



2月24日
ママカフェ(加須市)



2月28日
県中地区借上げ住宅自治会
定例会(郡山市)



3月11日
サポートセンターひだまり
避難訓練(いわき市)



3月13日
県北ふたば会交流会
タブレット教室(福島市)



3月20日
白河男の料理教室卒業式
(白河市)

お知らせ

行事



高校生のみなさんへ ～登ろう!日本一の富士山へ



平成27年7月22日(水)～24日(金)

昨年に引き続き今年も、「東北の高校生の富士登山」のお知らせが届きました。

「東北の高校生の富士登山」は、福島県三春町出身の登山家・田部井淳子さんと株式会社山と溪谷社・日本山岳遺産基金が主催する事業で、「日本一の山から、次なる東北を支える「勇気」と「元気」をもらって前へ進んでいってほしい」という願いをこめたプロジェクトです。今回で4回目となりますが、今まで参加したのは福島県を中心とした東北の高校生221人。全員が富士山登頂を果たしているそうです。是非チャレンジしてみませんか？

主催・田部井淳子さんからのメッセージ

双葉町の高校生みなさん、

この夏、日本一高い富士山に登ってみませんか？

あきらめず、一步一步登っていけば、自分の夢はかなえられます。

それをぜひ、体感してください。そしてたくさん仲間をつくって下さい。共に日本一の富士山に登った仲間との絆は一生の宝になると思います。山頂に立ち、次なる東北を支える新たな勇気と元気を山からもらって前へ進んでいってほしいと心から願っています。

東北の高校生の富士登山 2015 総隊長 登山家 田部井淳子



写真提供：東北の高校生の富士登山事務局

- 【日付】 平成27年7月22日(水)～24日(金)〈2泊3日〉
【集合】 平成27年7月22日(水)
①原ノ町駅(南相馬市)AM5:30 ②郡山駅 AM7:30 ③いわき駅 AM8:00
- 【場所】 富士山(富士宮/御殿場ルート)
- 【行程】
7月22日(水) 各集合場所からチャーターバスで「富士宮口5合目」まで移動
富士宮5合目→(徒歩30分)→6合目(宿泊)
7月23日(木) 富士登山(登り約6時間、下り約4時間)→富士宮5合目に下山→
(専用バスで山梨県側へ移動)→富士河口湖町(宿泊)
7月24日(金) 午前中、世界文化遺産「富士山域」の文化や自然を体感するプログラム
(北口本宮富士浅間神社参拝、樹海散策等)
- 【参加対象】 被災した東北の高校生先着80名
*希望者には無料で登山靴、リュック、雨具上下のレンタルあり
*1日7～8時間歩ける体力が必要です *自信のない方、これからトレーニングする方も歓迎します
- 【参加費】 3,000円(富士山保全協力金など)※集合場所までの交通費は各自負担になります
- 【申込・問い合わせ】
「東北の高校生の富士登山」事務局
(タベイ企画内)
☎03-3264-6426
(月～金 10時～18時)
- 詳細は、右記QRコードから
「東北の高校生の富士登山」専用サイト ▶
http://sangakuisan.yamakei.co.jp/tohoku_fujisan/ ^

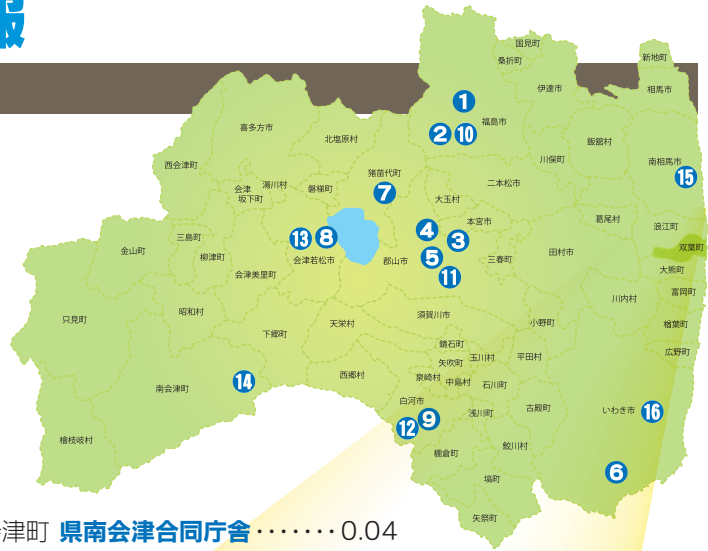


放射線モニタリング情報

福島県内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

平成27年3月27日

- ①福島市 北幹線第二応急仮設住宅…………… 0.15~0.26
- ②福島市 さくら応急仮設住宅…………… 0.13~0.14
- ③郡山市 日和田応急仮設住宅…………… 0.14~0.41
- ④郡山市 喜久田応急仮設住宅…………… 0.10~0.50
- ⑤郡山市 富田応急仮設住宅…………… 0.24~0.28
- ⑥いわき市 南台応急仮設住宅…………… 0.04~0.05
- ⑦猪苗代町 上川原応急仮設住宅…………… 0.06~0.07
- ⑧会津若松市 第二中学校西応急仮設住宅…………… 0.06~0.10
- ⑨白河市 郭内応急仮設住宅…………… 0.11~0.16
- ⑩福島市 県北保健福祉事務所…………… 0.23
- ⑪郡山市 県郡山合同庁舎…………… 0.13
- ⑫白河市 県白河合同庁舎…………… 0.10
- ⑬会津若松市 県会津若松合同庁舎…………… 0.06



- ⑭南会津町 県南会津合同庁舎…………… 0.04
- ⑮南相馬市 県南相馬合同庁舎…………… 0.11
- ⑯いわき市 県いわき合同庁舎…………… 0.07

双葉町内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

地区	地点	平成24年 4月1日	平成27年 3月27日
新山	新山公衆トイレ脇公営駐車場	—	1.01
新山	新山公民館	—	0.58
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.53
新山	双葉南小学校	—	0.64
新山	双葉中学校	—	0.60
新山	県立双葉高等学校	—	1.15
新山	中央公園	—	0.75
下条	双葉総合公園	2.60	1.28
下条	双葉町役場	—	0.37
郡山	郡山公民館	1.48	—
細谷	細谷公民館	2.31	0.94
三字	三字公民館	2.53	1.24
山田	山田農村広場	24.47	—
石熊	石熊公民館	12.10	5.59
長塚	双葉町体育館	6.25	—
長塚	長塚二公民館	3.26	1.33

地区	地点	平成24年 4月1日	平成27年 3月27日
長塚	双葉町青年婦人会館	—	2.86
長塚	町西住宅	—	0.63
長塚	JAふたば北部営農センター	—	8.61
長塚	双葉北小学校	—	2.50
長塚	ふたば幼稚園	—	2.20
長塚	双葉駅北側駐車場	—	1.56
長塚	双葉町児童館	—	0.45
羽鳥	上羽鳥	1.89	—
羽鳥	羽鳥公民館	1.73	0.76
寺松	寺松公民館	3.46	1.69
渋川	渋川公民館	1.48	0.69
鴻草	北部コミュニティーセンター	4.30	2.10
中田	中田公民館	0.77	0.39
両竹	両竹公民館	0.54	0.19
浜野	浜野公民館	0.34	0.17

原子力規制委員会ホームページより

※全国及び福島県の空間線量測定結果については原子力規制委員会ホームページでご覧になれます。▶ <http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

編集後記

記事でも紹介しました『ふたばしゃべり場』。これまでに多くの若者と出会い、ふるさと双葉への想いを聞かせていただきました。『ふるさとが元気であること』は双葉町のみなさんの元気につながると信じています。双葉の熱き若者と共に、双葉が元気を取り戻す方法をこれからも一緒に考えていきたいと思っています。

春は出会いと別れの季節。いわき・郡山・埼玉県加須で活動しているふたさぼも、事務所の引っ越しや異動がありました。新しい環境でまだまだ落ち着かない雰囲気もありますが、気持ちを新たにがんばっていききたいと思います。
(ふたさぼ 小林)

後世に残したい双葉町

昭和50年代前半、現在の町民グラウンドは双葉中学校の校庭として利用されており、中学校移転後の活用として話題になった際、当時の町長が「町民の憩いの場として残したい」と話したというエピソードが深く印象に残っています。その言葉を受けて残された町民グラウンドはまさに地域の交流の場所となりました。年に一度開催されていた町民体育祭は双葉町全体、町民の心が一つになる行事でした。



町内のすべての地区が一つの場所で体育祭ができるのは小さい町ならではの。町の誰もがたくさんの思い出のある場所ではないでしょうか。